

平成30年度 和歌山市立湊幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立湊幼稚園

教育目標 : 心豊かでたくましい子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
環境豊かな湊幼稚園をめざして	『モノ』とのかかわりを通して	身近な自然に興味や関心をもってかかわり、様々な感情体験をできるにはどういったモノが必要かを考え、その環境構成に努める。	主に園庭の自然物の環境を見直し、季節ごとの草花や野菜を植えたり、ブルーベリーの樹を植えたりして、保育に取り入れた。
		自分から進んで体を動かし、のびのびと体を動かす楽しさを味わえるにはどういったモノが必要かを考え、その環境構成に努める。	一本下駄や竹ぼっくりなどの教材を準備するとともに、小学校の運動場を活用したり、安全に遊べる環境構成を行ったりした。
		自分なりの自由な発想で表現することを楽しめるにはどういったモノが必要かを考え、その環境構成に努める。	つくったり、飾ったりする遊びに意欲的に取り組めるよう、雑材の活用や、その他教材に使えるものを豊富に準備した。
	『ヒト』とのかかわりを通して	自分が人とのつながりの中で生活していることに気付き、充実感や満足感などを味わえるようにするとともに、してよいことや悪いことがわかり、相手の気持ちに共感できるようにするためにはどういったかかわりが必要かを考え、その環境構成に努める。	集団生活のメリットを生かし、友達や先生とのかかわりの中で様々な感情体験ができるような援助の在り方を探るとともに、園生活を送る中で、決まりや約束などがあることに気付き、守れるようにしてきた。
		自分の気持ちや考えを相手に言葉で伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりして、言葉での伝え合いを楽しめるようにするにはどういったかかわりが必要かを考え、その環境構成に努める。	まずは自分の思いを出したくなるような明るい雰囲気づくりに努めてきた。また人の話を聞く態度を身に付けたり、話を聞いてくれるという信頼関係づくりに努めたりしてきた。
		地域の方や喜楽会の方との触れ合いを通して、親しみの気持ちをもてるようにするにはどういったかかわりが必要かを考え、その環境構成に努める。	喜楽会の方と、焼き芋や餅つき、喜楽会訪問などで交流を深めたり、地域の消防分団を見学したりしてきた。
	『コト』とのかかわりを通して	考えたり工夫したり、時にはつまずいたり悩んだりしながら遊び、達成感や満足感を得られるようにするための時間や場の確保について考え、その環境構成に努める。	子供の主体性を重視するかかわりを基本に、自分でやり遂げたり乗り越えたりする経験を積み重ねられるよう、十分な時間の確保に努めた。
		安定した気持ちで幼稚園生活を送り、幼稚園が楽しいと思えるような雰囲気づくりについて考え、その環境構成に努める。	まずは、幼稚園はいっぱい遊べるとことということを感じられるようにし、また、困った時には先生や友達がいるということを感じられるようにしてきた。
		園児の様子や幼稚園教育の様子を、写真やたよりなどを利用して発信し、保護者や地域の方に幼稚園への理解を深めていただき、園児の育ちを温かく見守っていただけるような園づくりについて考え、その環境構成に努める。	園での様子の写真をスナップして玄関や廊下などに掲示したり、園だよりやクラスだよりなどで伝えたりしてきた。今年度は、地域での掲示までには至らなかった。

## 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

保護者アンケートの集計結果からは、全項目における『とてもそう思う』『まあそう思う』と回答した人の割合が79.8%となり、およそ8割の方が幼稚園の目標とその取組を理解していただいていることがうかがえる。

しかし、『あまりそう思わない』『思わない』と回答した人の割合が全項目平均13.1%になり、中でも設問9においては29.5%の方が『あまりそう思わない』『思わない』と回答している。これは、園児の育ちや保育の質の向上を図って、昨年度には一斉で行っていた活動や行事を見直し、園児が主体的に活動できる内容に変えていったことに起因していることがアンケートの回答からうかがえた。園だよりやクラスだより等で、園児の自発的な活動（いわゆる遊び）の大切さや、遊びを通しての園児の育ちなどを伝えているつもりでも、その意図が保護者にはうまく伝わらず、イベントが減ったことで教育の質が下がったと捉えられていることがうかがえる。

また、『わからない』と答えた人の割合が全項目平均7.1%になり、幼稚園での取組を保護者に伝えきれていないことがうかがえる。小学校以降の教育のように教科別、単元型の学習ではなく、その日にしたことや学んだこと、子供の育ちなどが形として見えにくい幼稚園教育だからこそ、丁寧に伝えていく必要性を感じた。

## 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

子供が主体的に活動に取り組み、遊びを通じた指導を中心としていけるように、『モノ』『ヒト』『コト』といった環境に視点をあてて保育を展開してきたことは、確かに子供たちの育ちにつなげることができた。幼稚園教育は環境を通して行うことを基本とすることを踏まえ、さらに豊かな環境を構成するために、教材研究やカリキュラムマネジメントを続けていきたい。

また、幼児期においては身近な生活や遊びから多くの学びがあることを保護者に伝え、大人主導の一斉的な活動や行事などを重視するのではなく、子供が主体的に活動できることや、子供の心の育ちに目を向けることなどがよりよい幼児教育と捉えていただけるようにしていきたい。

## 学校関係者評価委員による自己評価の検証

- 子供が楽しく幼稚園で過ごせることが何よりも大切であり、その上で、子供が幼児期に必要な経験を積み重ね、何事にも意欲的に取り組める豊かな心を育てるよう、引き続き取り組んでいただきたい。
- 保護者や地域の方に、幼稚園教育の意義を伝えていく取組を、今後も引き続き行っていただきたい。